

—教材としてのより効果的なPicture Card作成についての—考察—

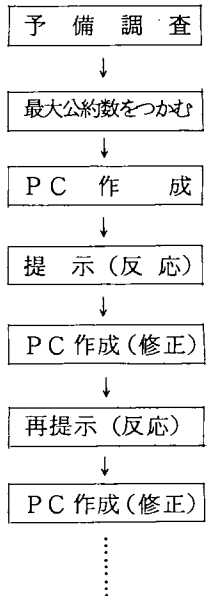
平 松 仁 史

我々現場の教師が日頃一番頭を悩ませていることは、「いかにしたら、より効果的な授業ができるか」という事ではないだろうか。Transformational Grammar、Oral Approach、Oral Methodや Graded Direct MethodいわゆるGDMなど、数多くの紹介されている教授法を実践に生かそうと右往左往している中で、結局は自分流の授業というものを作り上げていかねばならない。〇〇教授法に徹して授業をすることは、理論的に体系づけられているし有効であることは疑いないが、現実の問題として、それが学校の授業として、一番適切なものであるか、又可能なことであるかということ、どうであろうか。いくつかの教授法から利用できそうなものを集め、その時その時生徒の質や、環境など諸条件を考慮に入れた上で、自分流の教授法を生み出していく。これが一番可能であり、有効な方法だと思う。56年度からは時間数も、3、3、3となり我々には一層無駄のない授業が欲求される。無駄のない授業が、より効果的な授業であるかということに関しては種々の意見もあるだろうが、ここでは割愛する。

「自分流の教授法」を確立するという事について、原点に帰って考えてみると、実に多くの問題があることに気付く。黒板の使い方、例文の出し方、小テストの仕方、テスト問題の作り方、など、我々の一挙一動の総てが研究対象としての価値のあるものばかりである。今回の研究は、その内から英語科で最もよく利用される教材の1つであるPicture Card（以下PCと略す）をとり上げてみた。新しい単語を導入するにあたり、PCを生徒に提示し、生徒の頭の中にある概念を呼びおこす、その概念に音声なり文字を結びつける——これがPCの最も一般的な使用方法だと思う。特に低学年になる程、このPCが有効であることは明かである。一番難しいことであり、同時に一番大切なことでもあるが、提示した絵を通して生徒が教授者の意図した通りの反応をし、概念を抱いてくれるか。生徒に提示する絵は、「何を」「どのように」描けば、意図通りの概念を抱いてくれるか、その描き方を探ってみようと思う。

名詞や動詞は実物、写真あるいは動きで表現出来るので比較的簡単だと思うので、今回は抽象的な概念である「形容詞」を取り上げた。以下は調査を進めていく方法である。

- 主に1年生で学習する形容詞約40について
- 右の図の如く、何を絵で表現するかについては、ある形容詞について生徒がどのようなものをイメージとして抱いているか、その最大公約数的なものを利用する。その公約数に従ってPCを作成し、提示する。反応の結果をみて、部分的に修正を加える。あるいは別のPCを作成し、再提示をする。この繰り返しで、意図通りの反応を示してくれる生徒が80%台になるまで、続ける。
- PC提示に当っては、一切の条件をつけない。（実際の授業では、全体の流れがあり、ジェスチャーがあり、使われている場面がある。一切の条件をつけずに80%台の生徒が意図通りの反応をしてくれれば、授業中ではほぼ全員の生徒が反応してくれると思う。）
- 週一回、一回に付5～6種類の絵を、1～3年生全員を対象に調査を行う。
- 同一の形容詞が再び提示されるまでには、ある程度の期間をおく。
- 毎回、全部が形容詞を導くような絵であれば、生徒の方が合わせるように



なり、純粋な反応が得にくくなるので、動詞や、前置なども適宜入れていく。

以上のような計画で開始した。

予備調査として、生徒のイメージの最大公約数を得るために、「次の単語から連想するものを1つ書いてください」というアンケートから始めた。(反意語は書かないように注意)

結果は次の通りである(原則として4%~2%台までは項目のみ、それ以下は「その他」)

<p><u>1.大きい</u> 象(12.1%) 宇宙(10.0%) 海(7.4%) 山(7.2%) 地球・鯨・建物・車・船・ため息・夢・ ケシゴム 他25種類</p>	<p><u>9.黒い</u> 夜(13.0%) 制服(9.8%) 毛(9.7%) 鳥(5.7%) 猫(5.1%) 墨・黒板・目・腹・黒人 他30種類</p>
<p><u>2.青い</u> 空(39.8%) 海(20.1%) 信号機・目・湖・リング 他15種類</p>	<p><u>10.茶色の</u> 土(20.5%) 髪(7.5%) セーター(5.0%) ウイスキー・靴・机 他35種類</p>
<p><u>3.いそがしい</u> 母(14.2%) 仕事(12.3%) 年末(8.1%) 父(8.1%) 朝・勉強・蟻・文化祭 他31種類</p>	<p><u>11.冷たい</u> 氷(41.1%) 水(10.5%) 人・アイスクリーム・心・雪・手・飲物 他18種類</p>
<p><u>4.幸福な</u> 家庭(28.3%) 人(9.8%) 笑顔(7.4%) 私・金持ち・人生・愛・平和・王子 他31種類</p>	<p><u>12.長い</u> 足(10.5%) 川(7.6%) 道(6.8%) 蛇(6.0%) ひも(6.0%) 線路(5.4%) 人生・髪・トンネル・鉛筆 他28種類</p>
<p><u>5.あつい</u> (“あつい”と仮名書きにしたので、 熱い(76%)と厚い(24%)にわかれた 湯(23.2%) 夏(21.5%) 本(9.8%) コーヒー・アベック・愛・風呂 他27種類</p>	<p><u>13.新しい</u> 本(9.1%) 家(8.1%) 車(8.0%) 新入生・ノート・自転車・時計・服 (自分の持ち物で、新しい物を書いた生 徒が多かった。) 他50種類</p>
<p><u>6.高い</u> 山(31.6%) ビル(19.3%) 物価(7.2%) 空・背・ハイヒール 他20種類</p>	<p><u>14.古い</u> 本(10.3%) 時計(10.1%) 家(5.4%) 寺・城下町・辞書・車・鞆・ステレオ 他45種類</p>
<p><u>7.おもしろい</u> 漫画(26.7%) 本(18.4%) テレビ(9.7%) 映画・ゲーム・人・落語 他23種類</p>	<p><u>15.年とった</u> 人(老人)(49.5%) 犬(5.8%) 猫(5.0%) 先生・しわ・引退・人形 他24種類</p>
<p><u>8.小さい</u> 蟻(21.0%) 子供(20.4%) ねずみ・分子・心・目・虫・日本 他49種類</p>	<p><u>16.かわいい</u> 子供(21.3%) 猫(22.7%) 女性(8.6%) 人形(8.4%) 犬(8.0%) 花・小鳥・弟・パンダ 他14種類</p>

17.正しい

答 (12.3%) 人間 (8.4%)

行い・裁判・〇(まる)・考え・法律

他32種類

18.若い

人 (34.5%) 少年 (8.5%) 芽 (7.4%)

スポーツ・エネルギー・先生・力

他32種類

19.悪い

人 (25.7%) どろぼう (13.1%) 犯人 (5.1%)

政治 (4.0%)

顔・悪魔・心

他40種類

20.美しい

花 (23.7%) 自然 (8.9%) 顔 (6.6%)

人・女性・心・宝石・山・湖

他35種類

21.広い

野原 (20.9%) 海 (17.4%) 部屋 (8.3%)

運動場 (7.1%)

宇宙・空・心・道・庭

他31種類

22.深い

海 (48.0%) 湖 (9.4%)

谷・井戸・池

他40種類

23.偉大な

人 (個人名も含む) (58.6%)

仏像・父

他53種類

人の個人名——(野口英世・徳川家康・木下

藤吉郎・自分の父・ケネディー・シ

ュバイツァ・ヒットラーなど)

24.大切な

宝 (26.0%) お金 (8.6%) 友情 (8.6%)

両親 (4.0%) 心

他53種類

(1年生のみ。1年の10%の生徒が“もの”
と反応している。この項にとどまらず、1

年生には、幸福な人、悪い人、正しい人、
偉大な人、美しいもの、おもしろいもの

式の反応が非常に多い。3年生になれば、
ほとんど皆無である。)

25.親切な

人 (54.9%) 心 (13.1%) 老人 (8.0%)

先生 (4.0%) 友人・子供 他28種類

26.さみしい

孤独 (20.3%) 夜 (8.3%)

秋・留守番・別れ・心・音楽

他63種類

27.低い

山 (11.4%) 身長 (11.4%) 谷 (11.1%)

土地(盆地) (8.6%) 鼻 (7.1%)

点数・身分・声・程度・椅子

他45種類

28.人気のある

歌手 (個人名も含む) (70.5%) 友達 (10.0%)

本・スポーツ (具体名も含む)・パンダ・

歌・ゲーム

他33種類

歌手の個人名—(山口百恵・ツイスト・西城

秀樹・原田慎二・ピンクレディー他)

29.静かな

湖 (26.6%) 森 (19.4%) 田舎 (5.1%)

家・夜・音楽・海・人

他50種類

30.かんたんな

問題 (61.4%) 遊び (6.6%)

本・構造・模型

他32種類

31.するどい

刃物 (40.0%) 歯 (12.9%) 目 (11.4%)

つめ (6.0%) 感覚 (5.7%)

針・とげ・指摘

他28種類

32.危険な

崖 (15.4%) 場所 (19.7%) 山 (7.7%)

遊び (7.4%)

海・工事・車・冒険・道・関係 他32種類

33.有名な

人 (34.9%) 場所 (観光地) (9.6%)

本 (5.1%)

他38種類

34.うれしい

プレゼント (18.9%) 知らせ (8.6%)

成功・結婚・笑顔・正月・日曜日

他48種類

35.かなしい

死 (17.1%) 物語 (14.9%) 涙 (12.6%)

別れ (6.3%) 出来事 (5.7%)

目・顔・時・人生

他40種類

36.強い

人 (20.9%) 力 (13.7%) 心 (8.3%)

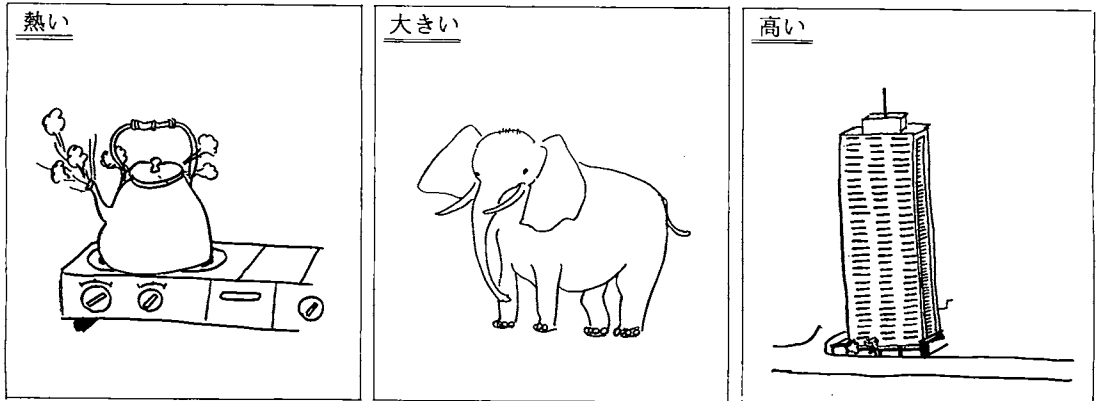
37.軽い 「24の大切な」のところで、1年生と3年生のちがいでについて少しふれたが、この「軽い」のところでもう少し詳しくみると、

	風船	荷物	体重	水素	自転車	気持	品物	その他	
1年	8人	26人	8人	6人	26人	6人	8人	34種	計178名
3年	37人	4人	25人	15人	0人	5人	0人	15種	計173名

「品物」という反応は、前述した「大切なもの、幸福な人」と同種の発想からくるものである。1年生の反応は3年生に比べ明らかに単純であり、3年生の1回ひねって反応する回答をみるにつけ、中学校3年間の成長ということを考えさせられる。又「その他」の数が1年生に多いということも目につくが、授業中によくしゃべる、あの自由奔放さは、こうしたアンケートにも現われるらしい。2年生の結果をみると、1年生とも3年生のタイプとも異り、まさに中間である。

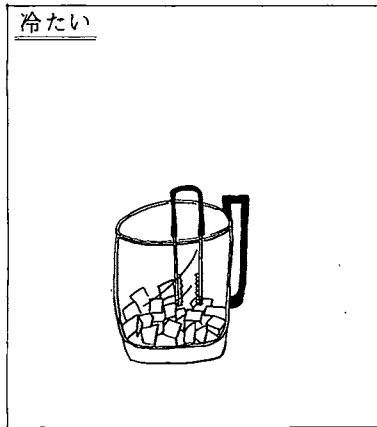
以上の予備調査の結果をながめてみると、反応に2種類あることに気付く。1つは、(冷たい—水)(熱い—お湯)(するどい—針)(軽い—水素)式のものであり、もう1つは(悪い—人間)(新しい—車)(かんたんな—問題)(かなしい—物語)式のものである。前者は半分は形容詞であり、あと半分は、それそのものの様な反応であり、「逆」も可なりである。後者は純然たる形容詞と名詞の関係で、「逆」は可能ではない。調査の次の段階である、「絵をみてある概念を抱かせる」のは、この「逆」の動きをすることになり、前者の種類の絵を利用すれば、より効果的であろうという予想で、前者・後者の種類のものを3つずつ選択し次の段階の調査に入った。

生徒に向ける指示は、「この絵をみて、パッと一番最初に頭にひらめいたものを書いてください」というものにするか、「いろいろと絵を今からみせますが、それが、どういう風だということを言いたいのだと思いますか」というものにするか、随分とまよった。後者の発問は、当然形容詞をあるいは副詞を求めていることになるし、前者の方は、それこそどんな種類の反応が出て来るか、見当もつかない。調査をより能率的に、短時間で終了させるためには後者の方が効果的であるが、しかし、授業中に教材としてPCを使用する場合、普通は何も言わないで見せるのが一般的である。絵を通して beautifulなら beautiful の全体的なアウトラインをまずぼんやりと把ませ、序々に「ぼんやり」を鮮明にしていく。短絡的に絵を見せて、「これが beautiful・美しいです」では絵を提示する意味がない。やはり、より授業に近い発問、と同時により苛酷な条件である、「パッと頭にひらめいたもの」を書くように提示することにした。以下は第一次調査の一部である。



(数字は%、その他の数は種類数、原則として2%~4%は項目としてあげ、それ以下はその他として統計をとってある)

	1年	2年	3年		1年	2年	3年		1年	2年	3年
あつい	13.3	19.0	40.0	大きい	20.0	22.4	33.1	高い	17.8	23.6	36.5
湯	10.0	6.9	4.5	象	30.0	39.0	15.7	ビル	41.1	39.7	10.7
やけど	3.3	2.9	5.1	アフリカ	13.2	9.2	10.0	都会	6.6	2.9	23.6
やかん	14.4	12.0	2.3	鼻	3.3	2.9	3.9	ホテル			現代的
コーヒー	4.4	4.6	9.6	動物園		インド	太い	建物			自殺
台所		水蒸気	インスタントラーメン			重い	どん感	エレベーター			地震
他22		他50	他28		他19	他32	他36		他15	他41	他32



第一次の調査を終え、生徒の反応を整理したところで、思わず“ウーン”と言わざるを得なかった。それは英語の教材を作るためのものから逸脱し、中学生の心理学的な興味になるのだが、この結果をみる限り、2年生は1年生に近い、という事がまず目につく。それに、“幸福な人”“おもしろいもの”的反応がここでは、そのものずばり湯・やかん・象・ビルとなって表われて来ている。予備調査で、1年生に「その他」の種類が多く、彼等の自由奔放さか、と前に表現したが、絵による反応になったら、全く逆に、3年生に「その他」の種類が多くなった。これは何と解釈したらよいのだろうか。絵に対して素直に反応する1年生と、1回ひねって反応する3年生の違いが、「その他」の数になったのであろうか、理解できない。3割～4割の1年生が、そのものずばりの反応を示しているが、これを解決するのが次の段階である。

“冷たい”の絵は、完全に提示のミスであった。予備調査では“水”が圧倒的に多かったため、それを利用したのであるが、普通の水の絵が描けなかったため、入れ物に入れて描いた。これが失敗の原因であった。“水”が多かったからといって、氷なら何でもよいというものではない、という事を痛感させられた。

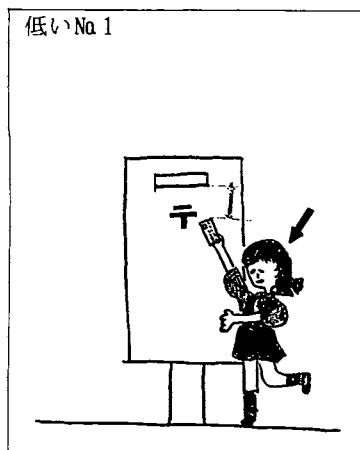
	1年	2年	3年
冷たい	11.1	20.0	20.7
水	17.8	19.5	1.7
ウイスキー (オンザロック)	28.9	33.8	50.1
冷蔵庫		コーヒー	コーヒー
ジュース		喫茶店	砂糖
砂糖		ジュース	つまみ
		夏	あまい

第二次調査の予備として、次の様な調査をやってみた。(この絵はなにをかこうとしたものですか)

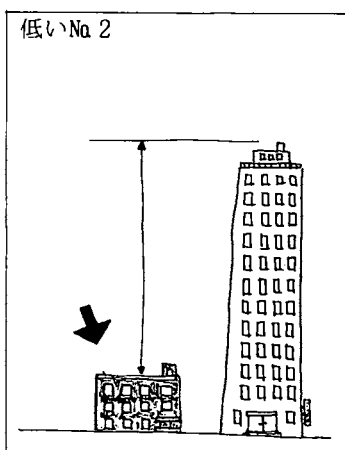
(指示なし)	(パンピに矢印)	(パンピを茶色に彩色)	(矢印)+(彩色)
白雪姫	29人	8人	3人
パンピ	0人	11人(13)	28人(30)
童話	4人	3人	2人
うまい絵	2人	2人	0人
かわいい	3人	3人	4人
その他	(計44名) 6人	(計44名) 4人	(計43名) 1人
			(計44名) 1人

“バンビ”の()内の数は、“かわいい”と反応した生徒のうちから、“バンビ”を可愛いと感じた生徒の人数を加えたものである。70%に近い生徒は彩色することによって注目するし、そこに矢印を加えることによって88%の生徒が注目する。バンビを一匹だけ描けば、確実に100%の生徒が注目するが、この88%をひき出すための4種類の絵による調査の目的は何か。そのものずばりの反応をなくす為には、補助線や、他の絵と比べることが必要であるため、“こちらの方”のことだ、と注目させるポイントを探るという目的である。

次により確かな反応を求めて、修正を繰り返した絵の変化を示す。Na 1 ~ Na 4 まで約3ヶ月半かかっている。「低い」が生徒に感じて欲しかった形容詞である。

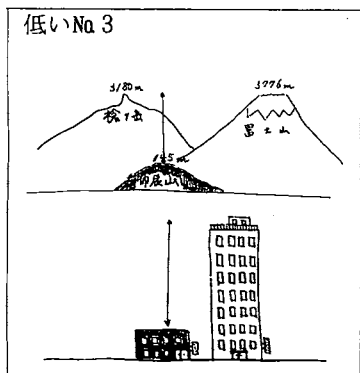


とどかない (32.0%)
 高い (12.3%)
 低い (8.5%)
 小さい (6.4%)
 チビ (5.2%)
 短足・くやしい
 あと少しかわい
 残念・手伝い
 ジャンプ・どうしよう
 他17種

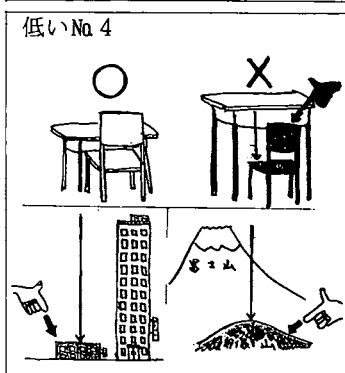


低い (24.7%)
 小さい (8.3%)
 差 (18.1%)
 ビル (4.7%)
 みじめ・日陰・
 自殺・電波障害・
 高い・中小企業

他19種



低い (41.9%)
 差 (21.3%)
 高い (10.5%)
 みじめ・
 中小企業・
 山・登山
 他19種



低い (85.4%)
 差 (2.3%)
 小さい (6.4%)

他7種

Na 2とNa 3にそれぞれ2割前後の生徒が、“差”という反応をしている。絵を描くにあたって、高いものとの比較によって“低い”を感じさせようという出発点があったので、“差”を感じるとしても、致し方ないのであるが、この2割を解決しなければ8割の線には到達しない。比べることから“低い”を導こうとして、同種の絵をさらに2枚、3枚とどれだけのものを加えようとも、生徒はますます“差”のイメージを固めるだけだ。比較する、という以外の種類のを加えてやらねばならない。それがNa 4の絵であり、一応成功したと思う。2.3%の生徒がまだ“差”と答えているがこれは44名のクラス人数分に換算すると1名分である。この絵にもう1つ付け加えて、「低い点数・声・身分」などの「低い」も加えれば、最終的に解決できるものと思う。

Na 3からNa 4にかけて補助線が変わったことに注目していただきたい。“差”が出て来る1つの原因は絵そのものに問題があったが、もう1つの原因は補助線にも問題があるように思われた。

No 3 と No 4 の間に、次の様な例が 2 回実施されている。予備調査では“広い”に対して“野原”という反応が一番多かったので、牧場の絵をかき、広がり強調する為に補助線を入れた。

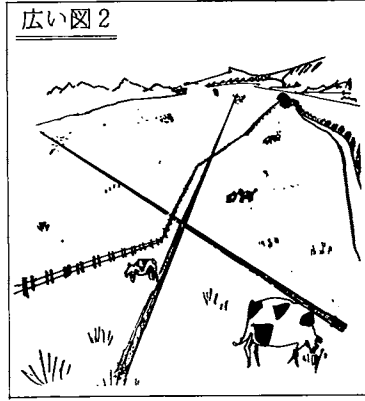
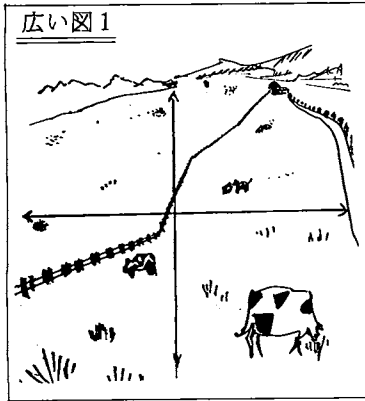


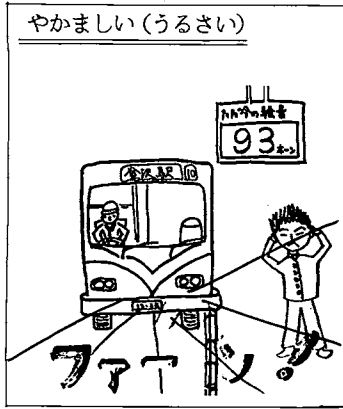
	図 1	図 2
広い	28.2%	58.6%
方位	14.5%	4.8%
牧場	14.3%	10.3%
雄大	17.8%	7.4%
北海道		大きい
牛		
地図		
アルプス		
他 20種		他 7種

全く予想もしてなかったので、“方位”という反応が14.5%もいるのに驚いた。そういわれてみると、なる程と思わざるを得ない。東西南北を感じたのが、直交しているせいであり、両方に矢印がついているせいだとすれば、“広い”を強調するためには、と修正したのが図2である。図2の調査をした時点では、已に1枚の絵では8割もの生徒を同方向に導くことは無理だとわかっており、補助線の引き方の調査に徹した。角度をかえたり、太い、細いをつけたり、矢印のつけ方を変えたりすることだけで、こんなにも違った結果がでて来ることを知らされた。←————→の矢印では、生徒の視線は両端の矢印に従って、往ったりきたり、動く。しかし————→だと視線は一方通行で、かえって来ない。その為に“広い”と感ずる生徒の数が多いと思われる。“低い”のところでも、“差”を感じたのは、同様に両端の矢印に従って、視線が上・下に往復したせいだと思う。その為にNo 4では下向きだけ矢印をつけた補助線にかえた。下向きに矢印を付けた補助線が、“低い”と反応させるに有効だったとすれば、同じ絵で、上向きに矢印を付けた補助線をつければ、“高い”が出てくる筈である。そこで、“低いNo 2”の絵に————→の上向きの矢印をつけたもので調査したところ、高い(65.4%) 高層ビル(10.5%) 差(10.1%) 自殺・地震・エレベーター 他16種の結果を得た。“低いNo 2”の結果を比べてみると明かであるが、“差”は半減し、期待通りの反応は倍以上の生徒がしている。

次の調査として、絵の種類を変えてみた。これは“冷たい”のところ、入れ物に入れた氷を見せウィスキーと3年生の50%もが反応したことの反省に始まっている。氷の絵ならば、なんでもいいというものではないと知らされたのであるが、もう一歩つっ込んで、「水を冷めたいと感じた時とはどんな時だろう」と考えてみた。冷たい——氷と連想する、だから氷の絵を描く。小さい——蟻と連想する、だから蟻の絵を描く。そこには補助線があったり、比較するものがあったり、名詞を表現しているにすぎず、絵には動きがない。第三次の調査として、「動きのある絵」、言いかえれば、「1枚の絵が、物語のある一場面を表現している絵」を利用した場合はどうなるかという調査である。

“冷たい”——小学生・中学生時代に、背中に雪を入れられたり、水を入れられたときの冷たさの経験を、

“やかましい”——バスや、トラックのような大きな車の警笛の大きさに驚くことがあるので、など、4枚の絵は生徒のアンケートよりも、自分の経験などの中から場面を搜してみたものである。



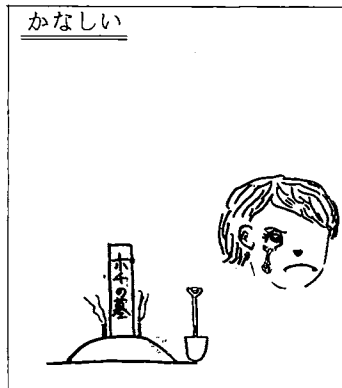
やかましい(60.5%)
 騒音 (10.3%)
 片町(大和前)
 (14.6%)
 公害
 ジェット機
 他5種
 (1年 82.8%)



冷たい (58.5%)
 あぶない (9.0%)
 小春日和 (3.0%)
 水
 鐘乳洞
 死
 他10種
 (1年 80%)



はずかしい(45.6%)
 恥 (12.2%)
 いたい (8.1%)
 なさけない
 水・あぶない
 すべる・赤面
 他10種
 (1年 78.4%)



かなしい (59.3%)
 かわいそう (10.5%)
 死 (11.0%)
 涙 (5.0%)
 さみしい・不幸
 事故・くやしい
 他15種
 (1年 83.2%)

(1年生の数字は、予想通りに反応した生徒の%である。)

この調査は87頁の後半から88頁にかけて列挙してある調査と同じ段階のものであるが、2年生の反応を示す数字と、今の数字を比較してみると、「物語になっている絵」がいかにか有効かという事は明かである。しかし、いかにか効果的とはいえ、1枚の絵のみからの反応は、やはり限界があるようである。

何ヶ月か調査を続けている間に、1年・2年・3年生のうち、最も希望通りの反応を導き難いのは2年生である、という事がわかった。1年生は、割と絵に対して素直に反応するようであるし、3年生は提示側の意図を汲み取って反応してくれるようである。1年や、3年生が8割を越えるような絵に対しても、2年生はせいぜい6割程度である。そのために後半は2年生に集中して調査を続けるようになり、必要に応じて1年・3年生の協力を得た。

今までに本文中で述べて来たが、ここで、より効果的な絵を描くためのポイントをもう一度あげてみると、

- 1) 補助線については、太さ、矢印の方向、など場面に応じて使い分ける。
- 2) 注目を引きつける矢印については、象全体をさすような場合には不要で、彩色のみで充分である。
象のしっぽを言いたいような場合には付けた方がよい。
- 3) 絵はやや大きめに書いた方が効果的である。
- 4) 1枚だけの絵からは決して満足のいく結果を得ることはできない、絵は多ければ多い程良い、しかし5枚以上は不要である。
- 5) 複数の絵は、同じパターンの繰り返しにならないように注意する。(ビルの“高い”、山の“高

い”に煙突の“高い”はもう無意味で、声の“高い”や、身分が“高い”などを利用する。）

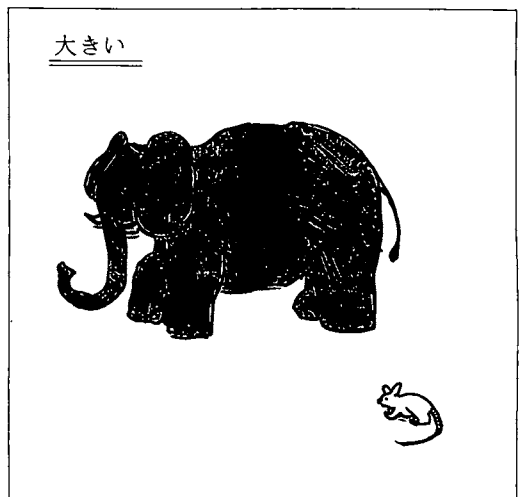
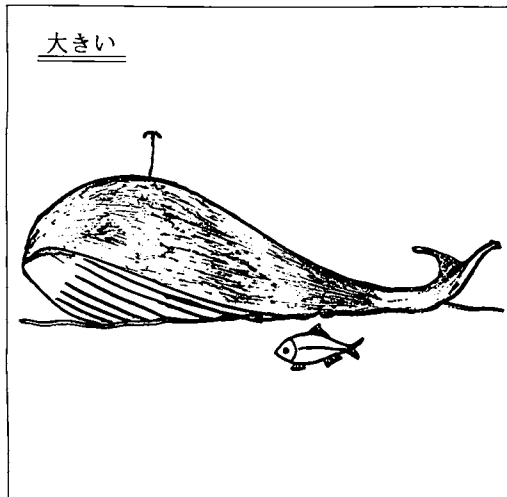
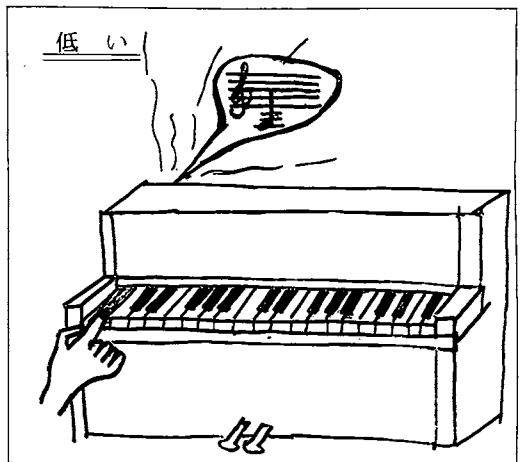
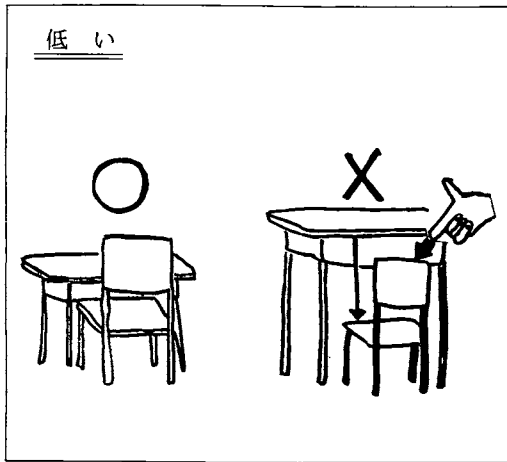
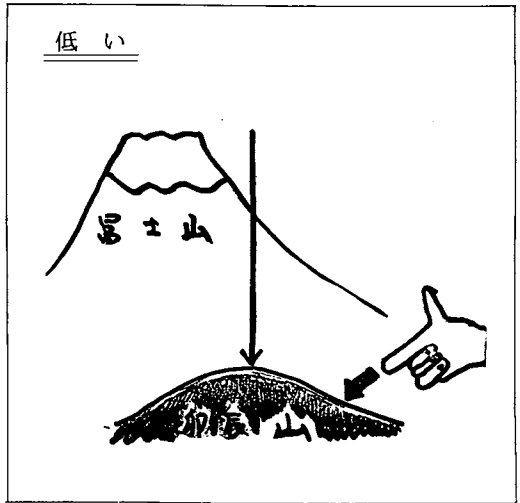
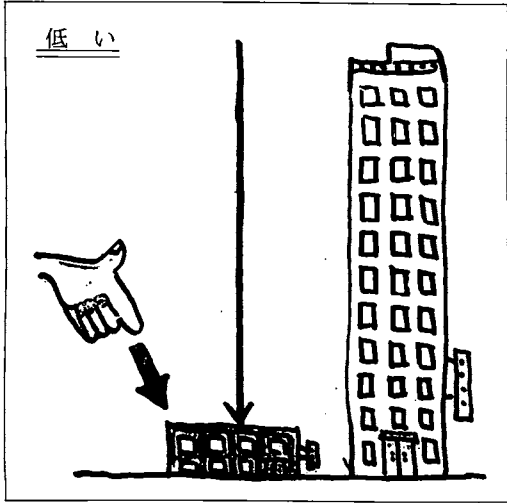
6)1 枚の絵が名詞の提示ではなく、ある場面の提示であるものの方が効果的である。

7)3 種類の絵をみせてある概念を生じさせるような場合、絵は1 枚ずつ3 回に分けて見せるよりも1 枚に3 種類を全部描いて、一度に提示した方が効果的である。（枚数が多くなると最初の絵を再び提示することを要求する生徒が出て来る。）

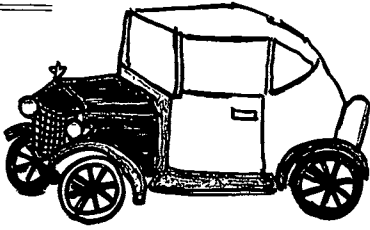
以上7 項目にわたって羅列したが、4 番目の「1 枚だけではなく、絵は多い程効果的である」というのが最大のポイントである。補助線がなくても、題材が普偏性のあるものであれば、複数の絵を提示することによって充分目的を達することはできる。より効果的にするために補助線を入れ、最大公約数的なイメージを利用するにすぎない。

以上、誰れもが頭で考えれば容易に察することができるような項目ばかりであるが、効果的なPC を作るときのたたき台として利用していただければ幸いである。

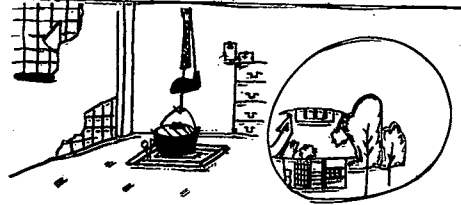
最後に、本調査を続け、最終的に出来上った絵の一部を御参考までにあげておきます。



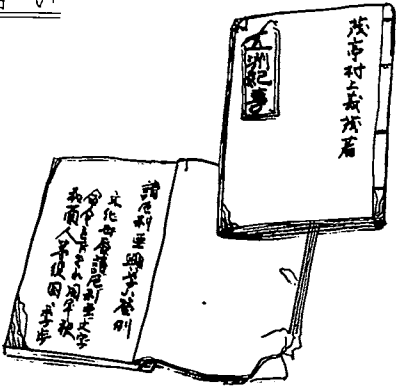
古い



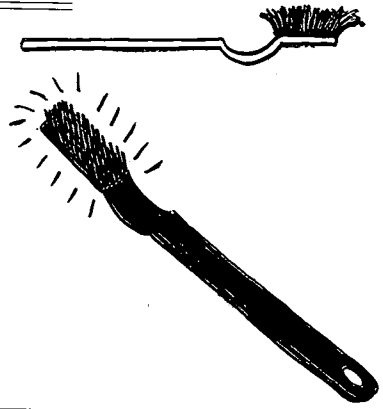
古い



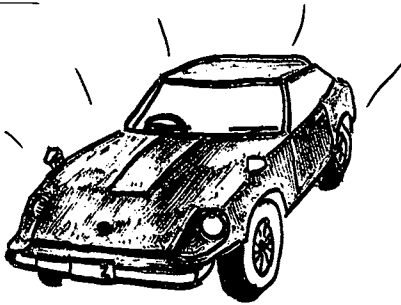
古い



新しい



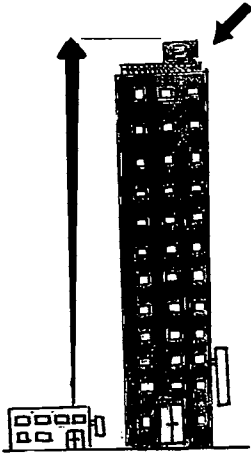
新しい



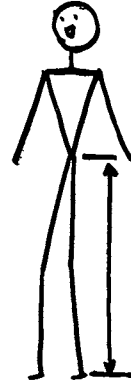
高い



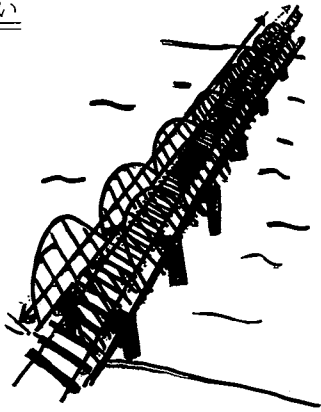
高い



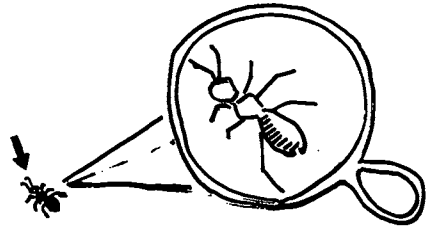
長い



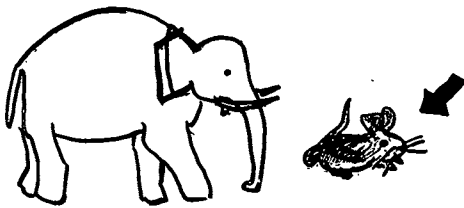
長い



小さい



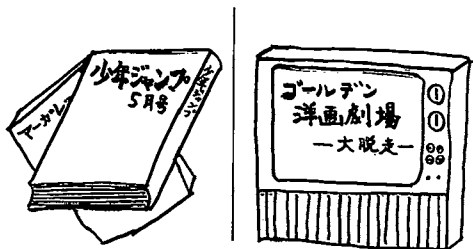
小さい



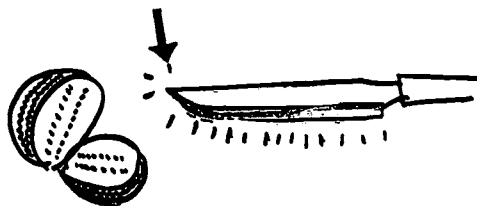
おもしろい



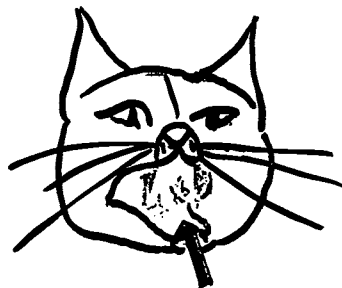
おもしろい



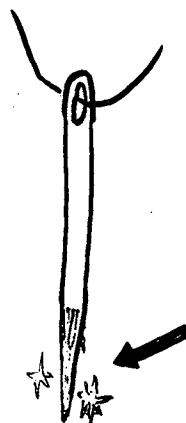
するどい



するどい



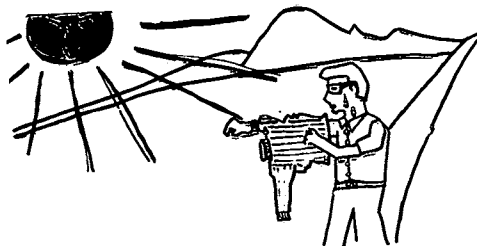
するどい

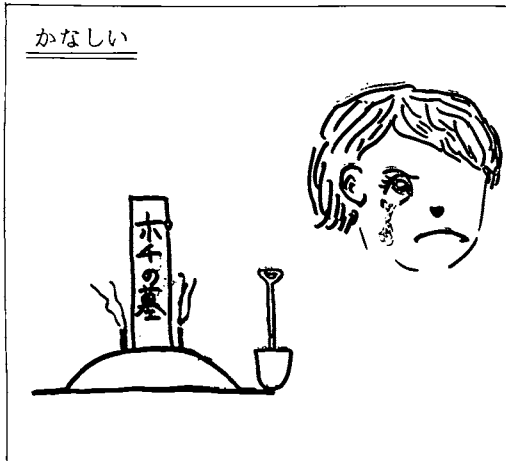


あつい

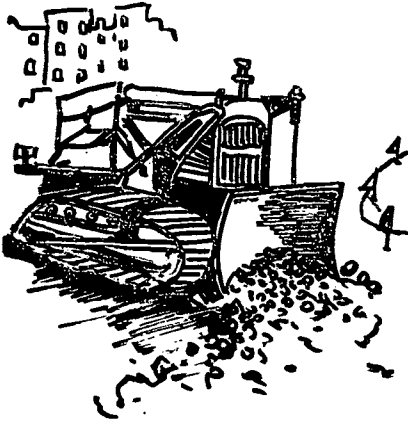


あつい

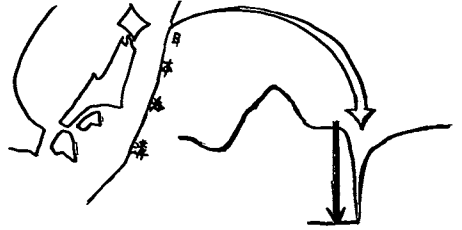




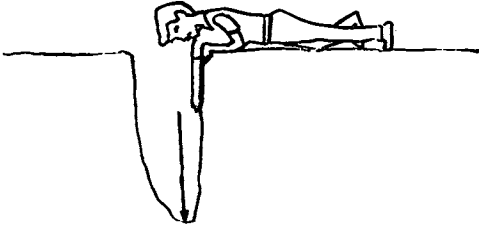
強い



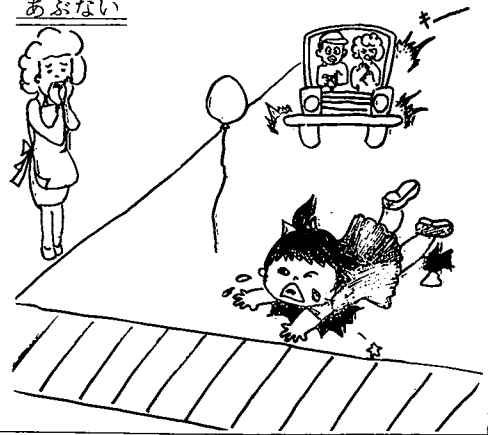
深い



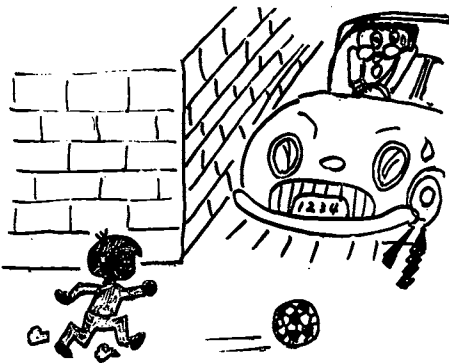
深い



あぶない



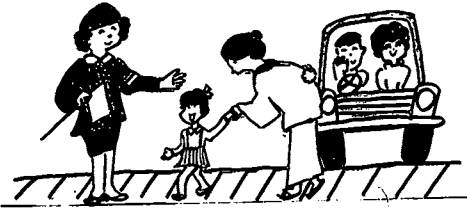
あぶない



あぶない



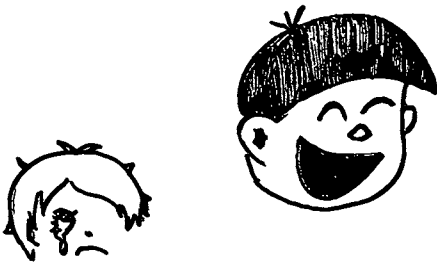
親切な



親切な



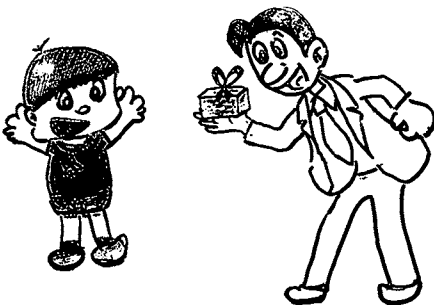
うれしい



うれしい



うれしい



いそがしい



